

レッサーパンダの赤ちゃん！一般公開開始&名前募集！

7月31日生まれのレッサーパンダの赤ちゃん。
ノリンちゃん（仮）の公開を11月13日（月）に開始します。
生まれた時の体重は約127g。今は10倍以上の約1.5kg。
顔もすっかりレッサーパンダらしくなってきました。
ノカゼお母さんに甘えるノリンちゃん（仮）。
皆さんに笑顔をお届けします。

レッサーパンダの赤ちゃん公開予定

- 日時 毎日13:00ごろ～
（30分程度の公開から、徐々に時間を延ばす予定）
- 場所 レッサーパンダ舎・室内展示場
- ※ 母親のノカゼと一緒に過ごします。
 - ※ 午前中は、お父さんのリンリンが出ています。
 - ※ ノリンちゃん（仮）とノカゼお母さんが寝室に戻った時はリンリンがお部屋に出てきます。
 - ※ 体調などにより、公開を中止または時間を変更する場合があります。

個人会員様限定 赤ちゃんの名前を大募集

- 募集期間 11月13日（月）～11月30日（木）
- 募集方法 レッサーパンダ舎前に設置してあります応募用紙にご記入後、投票BOXに入れてくださいね。
※ 雨天時はウサモルハウス休憩舎に設置します。
※ ハガキやその他の方法での受付はありません。
- 対象者 到津の森公園友の会・動物サポーター加入者（個人会員）の方限定。生まれてすぐはこんなに小さかったよ！
※ 応募当日の入会の方も対象となります。

森の仲間たち



「到津の森公園」公園事務所
北九州市小倉北区上到津 4-1-8
Tel 093-651-1895 〒803-0845
<http://www.itozu-zoo.jp/>

森のお便り 11月号 2017年

発行・編集 「到津の森公園」「森の仲間たち」17年11月1日発行 通巻177号

☆森のおはなし探検隊『木の葉のカルタとり』☆

お子様から大人の方まで楽しめるプログラムを月替わりで開催中の森のおはなし探検隊。

- 開催日時：11月12日（日）13:00～
- 開催場所：子どもホール2階集合
- 参加費：無料（別途要入園料）・事前申込不要

本物の落ち葉を使った楽しいカルタとりです。
たくさんのカルタがとれるかな？！

★キーパーズトーク「ゾウ」★

飼育スタッフが担当動物のおはなしをするキーパーズトーク
今回は、「ゾウ」。どんなおはなしが聞けるかな？

- 開催日時：11月の土・日・祝日 11:30～11:45ごろまで
- 開催場所：「林床の世界」ゾウ運動場前

ゾウと言えば、長い鼻が特徴ですね。
長い鼻はとても器用で、小さな物や柔らかいものでも上手につかむことが出来ます。さらに、この長い鼻を使って水浴びしたり、砂浴びをします。
また、ゾウの足の裏はとても繊細で、30～40Kmも離れたところの音の振動を感じ取ることもできるとか……。そんなゾウについて、疑問に思ったことや飼育スタッフしか知らないことなど、おはなしを聞いてみませんか？

詳しくは、HP もしくは到津の森公園(651-1895)まで、お問合わせ下さい。

森のなかま・マンドリル

元気いっぱい成長中

6月26日に生まれたマンドリルのエルサ。
マンタロウ（父）とココ（母）の第3子です。

生まれて早4ヶ月が経とうとしています。

生まれて暫くはお母さんに抱かれおっぱいをのんだり、お昼寝をしたり、1日中お母さんの腕に抱かれたまま過ごしていましたが、4ヶ月も経つとおっぱいとお昼寝以外はお母さんから離れ、木に登ったりぶらさがったり、葉をかじってみたりと楽しそうによく遊ぶ姿がみられるようになりました。

エルサにはお姉ちゃん（ニコ）とお兄ちゃん（ニモ）がいます。

姉弟で追いかけてっこをしたり葉っぱにダイブしたり、水たまりに飛び込んでみたりと、このニコ・ニモ姉弟はとっても「やんちゃ」。エルサもそんな姉弟の様子を毎日見ながら近寄ってみたり、真似をしながら元気いっぱい成長しています。

これからはニコ・ニモにエルサが加わり、ますますにぎやかになること間違いなしのマンドリル一家の様子をぜひじっくり見てみてください。



飼育展示係 小林 弥生

花暦 神無月

静かな晩秋の昼下がり、ドングリ(ブナ科の木の実)をはじめ到津の森公園「実のなる木を訪ねるミニミニツアー」に出かけてみませんか。ポランティア手作りのネームプレートもご案内いたします。

まずは南ゲートから入園して、右手のウッドデッキをあがると右手にスタジイの樹冠が現れました。いつもは見上げるシイの実もここでは手の届きそうな枝にいっぱいです。

春に花が咲いて翌年の秋にやっと熟し、生でも炒っても美味しく古代大切な食料だったそうです。

スタジイを通り過ぎればクスノキが現れました。大木になるものが多く、よく巨木ランキングに数えられていますね。

楕円形の葉には三本の太い葉脈(三行脈)、葉・幹・根いずれにも独特の香りがあるのが大きな特徴で、香り成分は樟脳(防虫剤)として利用されます。

あまり目立ちませんが、春には葉の付け根によい香りの白い花をつけ、秋には7ミリ程の黒光りする球形の実が熟します。

ここで左手に目を移すと、アラカシのドングリが実っています。渋いため食用にはあく抜きが必要ですが卵円形でとても可愛い形なのです。カシといえばアラカシを指すくらいよくみられたもので葉の先にだけ鋸歯があるのが目安。

デッキを過ぎて左にゆくとタラヨウがあらわれました。実は径8ミリの球形で多数が棒状に固まって着き赤く熟します。このものすごい数の赤い実が春には鳥に食べつくされてしまうのです。大きな葉の裏を傷つけば黒く残るので、字を書いて紙の代用に使われた時代もあったとか。

またまた左にぐるっと曲がって下ると左にこれまた大きな葉と大きなドングリのマテバシイに出会います。美味しくて古代、大切な食糧だったようですが現代でも茹でて簡単に古代の味が楽しめるのです。

ここで出発点に戻りましたが、最後にタブノキの巨木が待っていてくれました。春浅くから赤い新芽が大きく芽吹く生命力いっぱいの公園シンボルツリーです。葉の付け根に着く赤い軸の先には1センチ大の実が下がり黒光りしています。

ペアで歓迎してくれていたタブノキコンビもいつの間にか一人になってしまいました。園にいらした時には、あなたからも“元気？”と声をかけてくださいね。

文:花咲くおばさん